

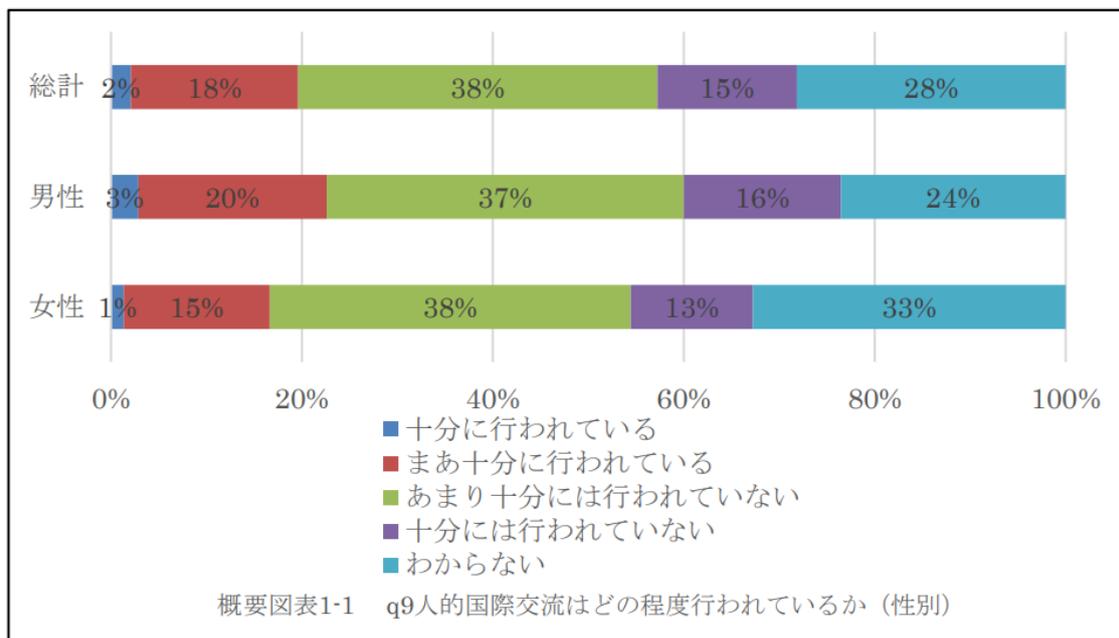
「科学技術の人的国際交流増を 競争力低下背景に期待高まる」

半数以上の日本人が科学技術分野の人的国際交流が十分でないとみていることが、文部科学省科学技術・学術政策研究所の調査で明らかになった。男女の差はわずかだが、年代別では不十分と見る人の比率が40歳以上で年齢が上がるほど高くなる傾向が見られた。国際交流を進める意義については、「お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる」を挙げた人が男女ともに最も多く、それぞれ47%に上った。

半数超が交流不十分と評価

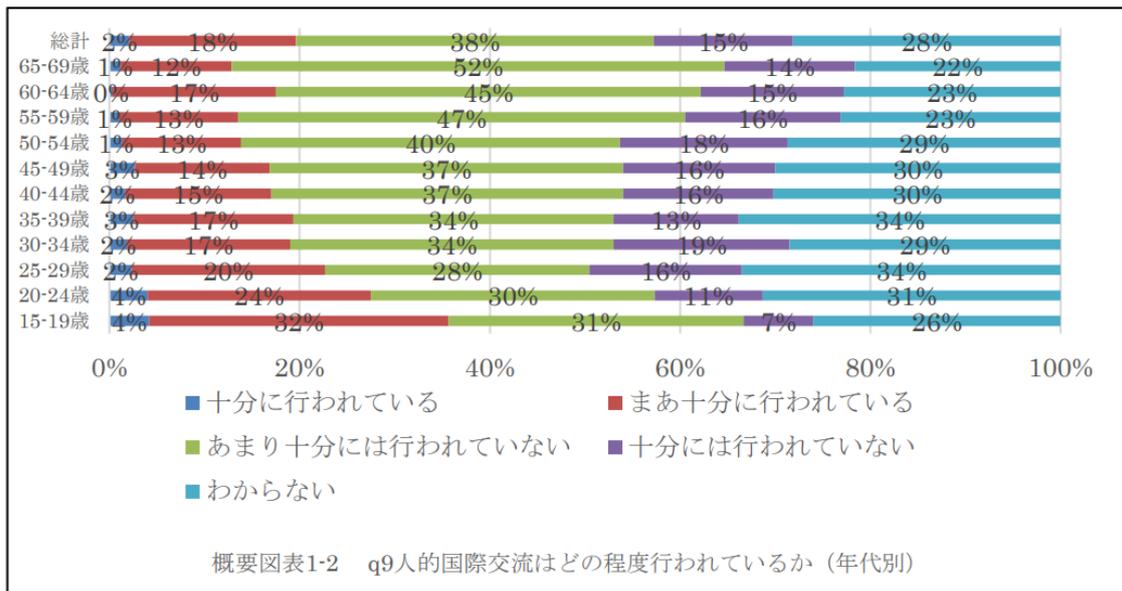
12日公表された報告書「科学技術に関する国民意識調査」は、科学技術・学術政策研究所が科学技術に関する国民意識データの収集を目的に2009年から毎年実施している。毎回、繰り返し調査する基本的な項目のほかに、特定のテーマも付加した調査となっており、今回は人的国際交流をテーマに国民の見方を調べた。調査対象者は、インターネット調査会社にモニター回答者として登録されている15~69歳、計6,600人。5歳刻みの11の年齢層、各男女同数600人から成る。インターネット調査という手法で2022年10月に実施された。

人的国際交流について、「十分に行われている」と答えたのは男性3%、女性は1%のみ。「まあ十分に行われている」も男性20%、女性15%にとどまった。「十分に行われていない」（男性16%、女性13%）、「あまり十分に行われていない」（男性37%、女性38%）を合わせると、「比較的否定的な見解」を示した男性が53%、女性が51%といずれも半数を超す結果となっている。



（科学技術・学術政策研究所「科学技術に関する国民意識調査—人的国際交流について—」から）

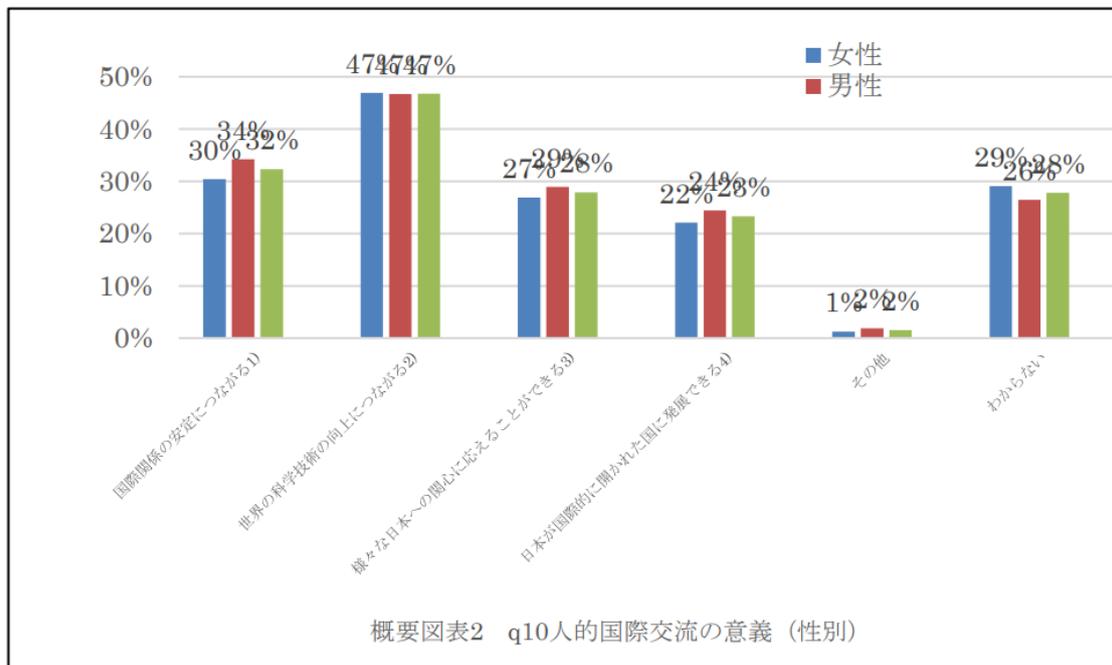
年代別で見ると、比較的肯定的に見る人が最も多いのは15～19歳。「十分に行われている」が4%、「まあ十分に行われている」が32%と、「十分に行われていない」7%、「あまり十分に行われていない」31%と、ほぼ同じ比率となっている。40歳以上の年代が、年齢が上がるにつれ不十分と見る人が多くなり、対照的に39歳以下の年代が若くなるほど不十分と見る人の比率が下がる傾向が見られた（十分とみる人より多くなることはないが）。



(科学技術・学術政策研究所「科学技術に関する国民意識調査—人的国際交流について—」から)

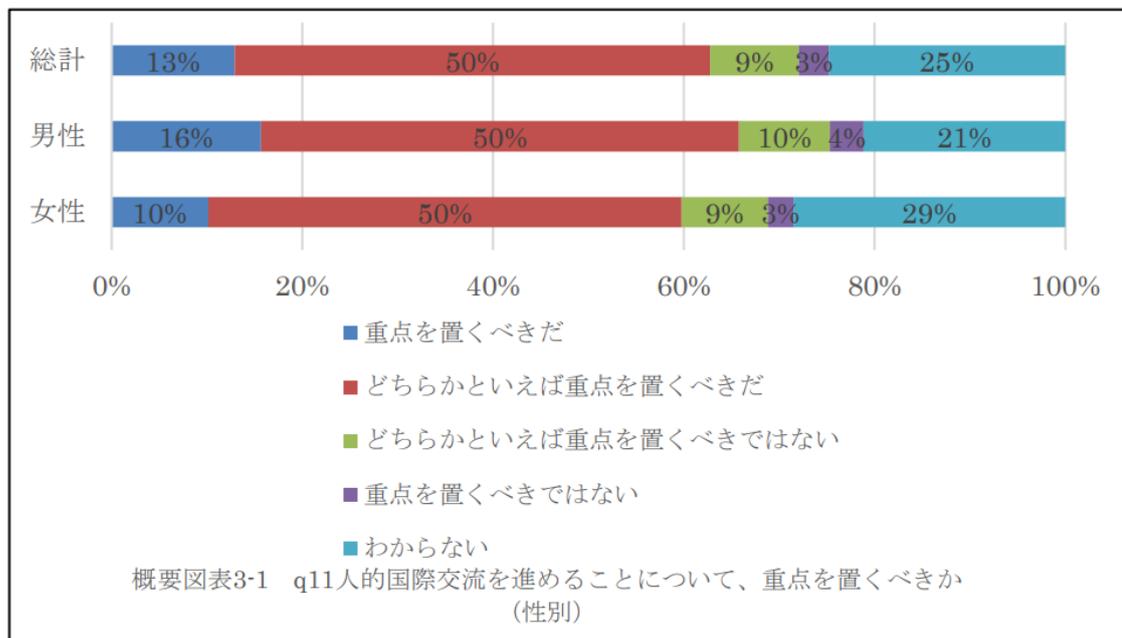
重要性認める声多数

人的交流の意義を認める人が多いこともわかる。「お互いに刺激し合うことにより、より豊かな科学技術が創造され、世界の科学技術の向上につながる」とする人は男女ともに 47%。次いで男性の 34%、女性の 30%が「日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる」意義を挙げた。



(科学技術・学術政策研究所「科学技術に関する国民意識調査—人的国際交流について—」から)

人的国際交流を進めることの重要性を認める人も多い。人的国際交流に「重点を置くべきだ」あるいは「どちらかといえば重点を置くべきだ」とする男性は66%、女性は60%といずれも高い比率を示す。一方、年齢別の比較が人的国際交流の現状評価とやや異なるのが目を引く。重点を置くべきだと考える人が高年齢になるにつれ増える傾向は、現状の人的国際交流に対する評価と似ている。ただし、重点を置くべきだと考える人の比率が25~29歳というより若い年齢層から高まる一方、24歳以下では逆に年齢が低い方が、重点を置くべきだとする比率が高くなっているという違いがみられる。

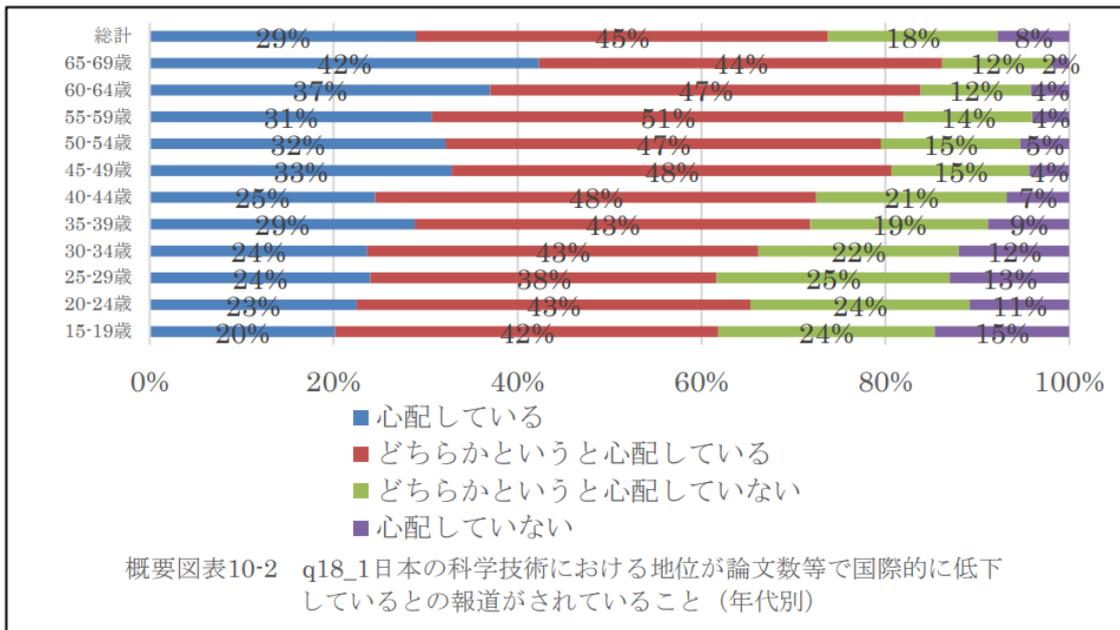
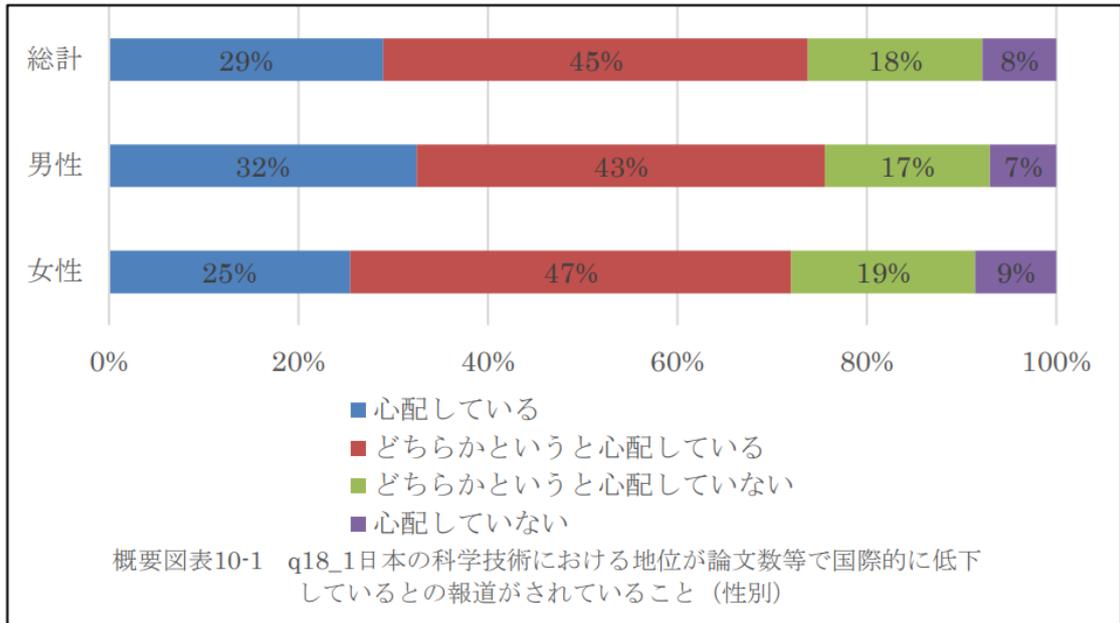


(科学技術・学術政策研究所「科学技術に関する国民意識調査—人的国際交流について—」から)

研究力低下に対する危機感大

近年、日本の研究力に対しては日本の学界に限らず行政府や産業界にも危機意識が高まっている。研究力の国際比較の重要な指標となっている高被引用論文数で日本の低迷状況は明らか。他の研究者に引用された回数が上位10%に入る論文数で日本は世界12位、上位1%に入る論文数で第10位(いずれも分数カウント法)となっている。20年前はいずれも米国、英国、ドイツに次ぐ4位だったから、急激な凋落ぶりは明らかだ。

こうした日本の研究力低迷と今回の調査結果に関連は見られるか。調査は、日本の科学技術における地位が論文数等で国際的に低下しているとの報道がされていることに対する調査対象者たちの見方も調べている。「心配している」「どちらかという心配している」を合わせた答えは男性で75%、女性で72%に上った。さらに目を引くのは、最も少ない15~19歳でも62%となっており、最も多い65~69歳(86%)まで年代が上がるほど、心配している人の割合が高くなっているという結果だ。

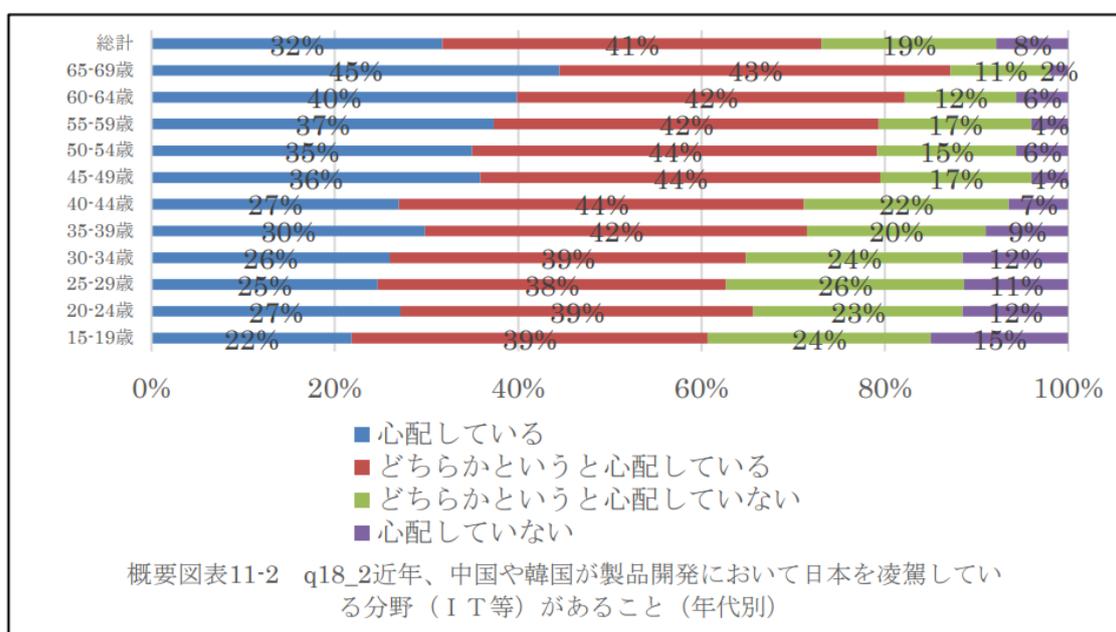
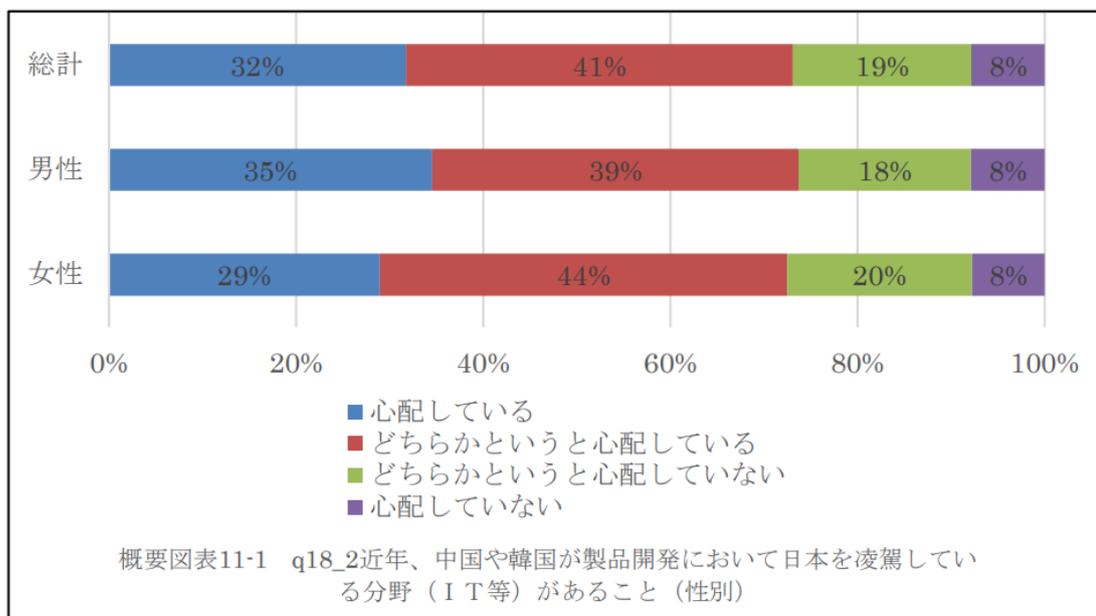


(科学技術・学術政策研究所「科学技術に関する国民意識調査—人的国際交流について—」から)

製品開発でも高まる心配

危機意識の高まりは、産業分野での競争力にも及んでいる。「近年、中国や韓国が製品開発において日本を凌駕している分野(ITなど)があることについて」

という問いに対する答えも、論文数などから評価される科学技術力同様であることが見てとれる。「心配している」「どちらかという心配している」を合わせた答えは、男性で74%、女性でも72%に上った。年代が上がるほど、心配している人の割合が高くなっているところも似ている。



（科学技術・学術政策研究所「科学技術に関する国民意識調査—人的国際交流について—」から）

日文 小岩井忠道 (科学記者)

関連サイト

科学技術・学術政策研究所「科学技術に関する国民意識調査 一人の国際交流について」

[NISTEP-DP218-FullJ.pdf](#)

科学技術・学術政策研究所[科学技術指標 2022・html 版](#) | [科学技術・学術政策研究所 \(NISTEP\)](#)

関連記事

2022年11月22日 [2022 世界大学声誉排名，亚洲首次有两所大学进入前十 - 客观日本 \(keguan.jp.com\)](#)

2022年10月20日 [《泰晤士高等教育》公布世界大学排行榜：中国排名提升，全球研究实力分布出现变化 - 客观日本 \(keguan.jp.com\)](#)

2022年05月30日 [确保人才和时间恢复研究实力，日本的政府支援劣于韩台等国家与地区 - 客观日本 \(keguan.jp.com\)](#)

2021年08月20日「[中国在高影响力论文中排名第一，被引次数位于前10%的论文超过美国 - 客观日本 \(keguan.jp.com\)](#)」

2021年04月26日 [日本科学研究调查：对基础研究和政府预算的危机意识增强 - 客观日本 \(keguan.jp.com\)](#)

2020年09月09日 [2021 年世界大学排名，中国直追美国，日本持续低迷 - 客观日本 \(keguan.jp.com\)](#)

2019年07月05日 [积极支援外国留学生就业，日本总务省就接收高级外国人才发布政策评价书 - 客观日本 \(keguan.jp.com\)](#)